

うきは市立大石小学校 学校だより

「校宝の松」



玄関にある
「校宝の松」

令和6年7月19日

発行者 校長 古賀 光成

1学期終業式 ～夏休みが始まります～

本日、1学期の終業式を迎えました。皆様のご協力のおかげで、大きな事故もなく、無事に1学期が終了できることを嬉しく思います。ありがとうございました。

いよいよ明日からは子供たちが待ちに待った夏休みです。子供たちは大半をご家庭で生活することになります。家庭での躾を行うチャンスです。充実した夏休みを送り、笑顔で2学期をスタートすることができるよう、ご家庭でのご指導をお願いします。

終業式では、命を守る行動をすること、生活のリズムを整えること、家の手伝いをするものの3点について話をしています。特に、水の事故防止、自転車乗車時のヘルメット着用、早起きをするものについては、家庭で具体的な約束や目標を話し合っただけければ幸いです。水難事故防止を親子で学べる学習ツールをいろいろな機関が作成していますのでご活用ください。

子ども向け学習冊子・アプリ「うんこドリル 川の安全」

小学生向け水難事故防止動画「リバーアドベンチャー ～川に魅せられし者たち～」
水難事故防止に取り組む6団体が協働で制作「水辺の安全学習アプリ」

また、「お手伝い」の心を育てるポイントを裏面に紹介していますのでご活用ください。



やる気を高めるために「あゆみ」の活用を！

子供たちに「あゆみ」（通知表）を渡しています。1年生にとっては初めての「あゆみ」です。ドキドキしながら受け取ったのではないかと思います。「あゆみ」を見たら、とにかく、何か一つでもほめる材料を見つけて、ほめてあげてください。例えば、「学校生活のようす」で○が付いているところを見て「○○ができてきているんだね。」、学習の記録を見て「○○が伸びたね。」、出欠の記録を見て「休まずに学校に行ったね。」など何でも構いません。人はほめられると、次もがんばろうという意欲がわいてきます。課題についてアドバイスをするときも、がんばりをしっかり称賛した後であれば、素直に聞くことができると思います。

水泳学習参観

9日（火）に水泳の学習を参観していただきました。子供たちは自分のめあてを設定し、その達成に向けて努力をしてきました。一緒に練習する中で、子供たちの「うまくなれるようにもっともっと練習したい」という熱意が伝わってきました。本番では力を発揮できずに悔しい思いをした子もいたと思いますが、練習中の様子から子供たちの頑張りと成長を感じ取っていただけたのではないかと思います。



学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました

オンラインでの回答にご協力いただき、ありがとうございました。最終的な回答率は92%でした。肯定的な評価（4点満点中3点以上）が多く、温かいコメントもいただいています。詳しい結果と分析は8月の学校だよりでお知らせします。昨年度からの課題だった「言葉遣い」が改善してきているようです。全学年に共通する課題は、「週1日のノーゲームデーかノーテレビデー」「家庭での読書」「ゲームやスマホの時間のルール」の3点です。これらは夏休みの生活との関わりが大きいので、この機会に、各家庭で話し合っただけければ幸いです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
 ☆ 7月・8月の行事予定 ☆
 ☆ 7/21（日）学童水泳記録会 ☆
 ☆ 8/ 6（火）全校出校日 8:10 登校 ☆
 ☆ 8/12（月）～16（金）学校閉庁日 ☆
 ☆ 8/18（日）PTA美化作業 7:30 集合 ☆
 ☆ 8/26（月）2学期始業式 ☆
 ☆ 8/27（火）～28（水）発育・視力測定 ☆
 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

保護者の皆様へ

- ① 夏休みには、地域の行事や家庭において、花火をする機会があると思います。やけど等のけがや火事につながることはないよう、ご指導をお願いします。
- ② 「うきは市こども計画」作成のためのアンケートを、5年生（中2に兄弟がいる児童を除く）と1～4年生の一部（無作為抽出）に配布しています。郵送またはQRコードでの回答になりますので、よろしくお願いします。

「お手伝い」の心を育てるポイント

家庭で子供に役割をもたせ、その役割を果たす体験を重ねさせることで、子供は生きていく上で必要な生活技能を獲得するとともに、家族の一員としての意識や責任感を身につけていきます。また、自尊感情や規範意識を高めることにもなります。

文部科学省が行った調査によると、「食器をそろえたり、片付けたりする」「新聞や郵便をとってくる」「洗濯物をたたむ」といったお手伝いをしている子供はそうでない子供に比べ、道徳観、正義感が高い傾向にあることも明らかになっています。

家庭での取組として、子供の家庭での役割、特にお手伝いについてのポイントを紹介します。

○ 自分で決めたという感覚を持たせましょう

お手伝いは大事なことからと親が一方向的に難しいことをさせても、長くは続きません。「これ○ちゃんに手伝ってほしいなあ」「これはできるかな」など、子供の年齢や発達段階、家庭の状況などに合わせて、できそうなお手伝いをいくつか提案してみてください。そして、お手伝いは子供が自分から「やりたいな」「やってみよう」と子供自身に決定させることが重要です。

○ スモールステップで少しずつハードルを上げ、自信をもたせましょう

子供たちはやったことがないことはできません。簡単なことから始めて、実際にできそうかどうか、どれくらいの頻度だったら無理なくできるか少し様子を見てください。そして、自分できちんとできるようになって、次のお手伝いの内容を一緒に考えてみましょう。できることがだんだん増えることで子供は自信や意欲を高めていきます。

○ 子供にまかせ、温かく見守ることにしましょう

危険がともなうときはもちろん、手助けが必要です。しかし、それ以外は、できるだけ子供にまかせ、見守るようにしましょう。今の子供は、体験することが少なく、できないことが当たり前です。まずは、失敗することも想定しながらやらせてみましょう。うまくいかなくても時間がかかっても、まずは、自分の力で最後までやってみるという経験がとても大切なのです。また、どうしたらいいか尋ねてきたときは、わかりやすくなぜそうするのかなど話しながら一緒にやるといいでしょう。親子のよい関係を築くことにも役立ちます。

○ 結果を認め、感謝の気持ちや役に立っていることを伝えましょう

子供がお手伝いをしてくれたら、「ありがとう」「助かったよ」など、親として「うれしい」という気持ちを率直に言葉や態度で表現しましょう。たとえ、少し中途半端だったとしても「まだ、できていないじゃないの!」ではなく「ここまでしてくれたのね。ありがとう。」などやったことを認め、「次もやってくれるとうれしいな。」というように、やる気を持たせることが大切です。

※教育力向上福岡県民運動ワンポイント・リーフレット第3号「家庭生活（お手伝い等）」を編集しています。